

会 議 等 結 果 報 告	
名 称	令和 8 年度 第 1 回上富良野町学校給食のあり方検討委員会
日 時	令和 8 年 6 月 2 日（火） 18：00～19：30
場 所	社会教育総合センター 大集会室
出席者	委員 10 人（別紙）、 鈴木教育長、上嶋教育振興課長、飯村学校教育班主幹、大田学校教育班主査 学校給食センター 久保主査、田原栄養教諭 計 16 名（他に傍聴人 1 名）
内 容 （委員長選出までの進行：上嶋教育振興課長） 事務局より、今年度の進め方について説明を行った。 また本検討事案の「理解・周知が必要」との記載については、年度当初に PTA への説明を実施済みであることを補足説明した。また、本年度実施予定のアンケートについては、今回実施するものではなく、第 2 回委員会において内容を協議し、項目を整理した上で実施する予定であることを説明した。 1 委嘱状交付（上嶋課長） ・新年度により 4 名が新たに委員へ選出され、委員の委嘱状は机上配布による交付とする。任期については、昨年度の 9 月から来年 3 月までの約 1 年 7 か月とすることと、現要綱の規定どおり小中学校長及び各小中学校の P T A 会長に委嘱する。また、委員長と副委員長については任期内のため、昨年度と同様に岸山准教授、副委員長を軽部校長に引き続きお願いする。 2 教育長挨拶（鈴木教育長） ・今年度交代された 4 名の委員を含め、今後の委員会運営へのご協力をお願いしたい。 ・昨年度は当初の計画通りに会議が進まず、岸山委員長をはじめ委員の皆様に変なご心配とご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げる。 ・今年度は委員や事務局の変更に伴い、説明の重複等があるかもしれないが、資料の事前配布など運営を工夫し事務局一丸で進めるため、ご理解をお願いしたい。 ・昭和 55 年開設の上富良野町学校給食センターは 47 年目を迎え、圏域内で最も老朽化が進んでおり、調理員不足などの運営課題も含め富良野広域連合内で協議が続いている。 ・令和 6 年度に富良野市へ給食提供を打診したが、施設規模等の理由から困難との回答があったため、昨年度より町独自で今後の学校給食のあり方を検討することとなった。 ・子どもたちへ安心・安全な給食を安定して提供できるよう、委員の皆様からの率直なご意見とご協力を賜りたい。 3 各委員自己紹介 ・以降、委員長により会議を進行。 4 協議事項及び参考資料の説明（事務局より資料に沿って説明） (1) 協議事項 ・協議事項① 前回までのふりかえり	

- ・協議事項② 検討委員会作業の進め方
を飯村主幹より一括説明。
- ・協議事項③ 検討課題の再確認
- ・協議事項④ 想定される運営手法
を大田主査より一括説明

■主な意見等

○岸山委員長

私は外部から来ておりますが、上富良野町は地場産食材使用率の目標が約 40%と高く、土地柄が非常に恵まれた環境にある。財源については町が考えることであり、本委員会としては「どのような給食を子どもたちに提供したいか」という視点で議論していきたい。

今回は事例など見て判断していきたい。

○事務局

補足説明としまして、今年度の作業の進め方として、今回は 17 時から今回新たに委員となられた方を対象として第 2 回委員会の前半で給食センターの見学を実施したいと考えている。

■各種意見

○軽部副委員長

委員会のスケジュールは示されているが、委員会だけでなく町民や保護者への理解・周知も必要であることから、現在の進捗状況など踏まえ、広報紙など様々な媒体を活用し、広く情報発信していくべきではないか。

○西木委員

新設となれば多額の費用が必要となる。町として財政面をどのように考えているのか。新設する場合は、給食だけでなく町づくりとして考えていく観点も必要である。今の段階で、上富良野の人が生産した食材を上富良野の人が作り、上富良野の児童生徒に提供している一番いい状態であり、財政面を考えない場合は新設した方がいいに決まっている。財政面で厳しいということが決まっているのであれば、議論は難しい。

○事務局

本委員会では方向性を検討いただくものであり、「お金がないからできない」という前提では考えていない。示している複数の運営手法について、それぞれの可能性を検討いただきたい。

○軽部副委員長

提言書のイメージが見えにくい。4 つの運営手法を順位付けするのか、それとも予算は考えずに別の方向性を示すのか、ある程度ゴールを共有していただきたい。

○岸山委員長

運営手法そのものを選ぶだけではなく、それが町や地域住民にどのような効果をもたらすのか、町の皆様に役立つのかということを示していけたらと思っている。先進事例も参考にしながら検討を進めたい。どの方法がより望ましいのか判断できるよう、情報提供をお願いしたい。どの選択がベターなのか情報提供を頂きながら未来への橋渡しとなるような議論にしたい。

○桑原委員

他自治体の事例など、参考となる情報を提供してほしい。

○金山委員

昨年の第 1 回でも同様の意見を述べた。今年の第 2 回以降の議論に活かしてほしい。まずは

安心・安全な給食が重要である。

○佐藤委員

アンケートの対象は町民も含まれるのか。児童生徒保護者と先生が対象となっているが、広報紙などで広く周りを巻き込むのであれば、町民も含まれるのではないかな。

○軽部副委員長

給食センターはまちづくりや雇用にも関わるため町民の方にも関心をもってもらうことが必要なので広報などでの周知が必要となる。アンケートの範囲については、内容や目的によって町民の意見も必要となる場合もあり、事務局によるアンケートの目的や対象を整理する必要がある。

○岸山委員長

当初アンケートは給食に対する満足度調査を想定していた。

○菅原委員

財政面の説明があるのであれば、現実的に可能な選択肢も示してほしい。また、現施設は改修で対応できるのか、それとも建替えが必要なのか。時間的な猶予がどの程度あるのかも知りたい。また、衛生基準についても基準について懸念があるとされており、実際のところどうなのか。

○事務局

今年度は仕切り直しの形で検討を進めている。昨年度は給食配送車の故障もあったが、理事者から具体的な期限は示されていない。ただし、可能な限り早期に方向性を整理したい。

○岸山委員長

現在の施設は衛生基準を満たしているため、安全面で大きな問題はない。しかしエアコンがなく、食中毒リスクや職員の労働環境面で課題がある。現行基準に照らすと、十分に恵まれた環境とは言えない。施設の構造上の問題もあり、クーラーはつけられないなどがある。

○菅原委員

食中毒のリスクがあるとのことで理解した。施設環境の改善も含めて考える必要があると感じた。

○西木委員

地元農産物を活用した食育は大切である。施設整備の財源をどうするかは町議会等で議論されるべきことであり、本委員会では子どもたちにどのような給食を提供したいかを考えるべきではないか。給食のあり方検討委員会とされているが、給食センターを考える会のようになっており、整理がつかない。財源の話も出ていたが、上富良野町には防衛予算がある。そこをうまく作る方法がないのか、新施設を十勝岳噴火に備えた避難所と給食センターを活用した災害食の提供や、食と農業をつなぐ施設にも活かすなど方法はないのか。

○事務局

具体的な防衛予算の割合や事例について、今後情報収集を重ね、次回にはお示しできるように精査していきたい。西木委員から農業者ならではの発言に感謝したい。

○森井委員

皆さんが話したような内容は昨年度も私から発言させて頂いている。

給食センターは災害時の炊き出しや防災機能、雇用創出など、町づくり全体の観点からも検討できるのではないかな。道の駅との連携なども含めて検討材料になると思う。また、令和6年度で広域センターから断られているが、それが令和8年度で出来るのか、今働いている人たちがどうなるのか。難しい問題なのは重々承知している。すでに考えがあつて結論ありきの議論にはして

ほしくない。

○野原委員

アレルギー対応について、運営手法だけではなく、アレルゲンを極力使用しない事例なども参考にしたい。

○岸山委員長

近年はアレルギー対応食品も増えており、以前より対応しやすい環境になっている。

(2) 参考資料

- ・参考資料① 諸計画からみる学校給食
- ・参考資料② 地元産の使用率
- ・参考資料③ アレルギー代替食
- ・参考資料④ 児童生徒数の推移

を大田主査より概要のみ一括説明

■その他意見

○軽部副委員長

今日は「地域の○さんのアスパラだよ」など、地元食材を活用した特色ある給食は魅力的である。中富良野町や富良野市との広域連携なども検討の余地があるのではないかな。

○岸山委員長

昨年の私の研究等でも、民営化だけでなく直営方式のメリットも示している。地域の食育や保護者の意見を踏まえながら検討したい。西木委員は地産地消で地域完結が親の総意であると表見しており、アンケートの結果がそうであれば良いものかと思う。

■まとめ

委員長より、給食のあり方については町全体で考えるべき課題であり、幅広い意見を伺いながら検討を進めていくことを確認した。

次回委員会までの課題として、

- ・アンケートの内容及び対象者の整理
- ・町民への広報・周知方法の検討

を確認した。

■閉会

次回開催を確認し閉会した。

次回開催 令和8年8月3日 18時から

※給食センター見学を17時から新規委員の4名を対象に実施する。

上記内容を確認し、19時30分に閉会した。

